

楽らく通信



1	表紙	4-8	歴史を訪ねて (5) 後編 精神病院の不詳事件
2	スペース楽 活動報告	9	年度活動報告
3	スペース楽 2、グループホーム 活動報告	10	ご支援ご協力／賛助会員募集／編集後記



【発行】

●スペース楽 小金井市東町 4-10-14 TEL: 042-388-6456 FAX: 042-316-3664

E-MAIL: space-raku@mx4.alpha-web.ne.jp

●スペース楽・2 小金井市本町 1-6-11 TEL/FAX: 042-388-7887 E-MAIL: 1997raku.2@jpm.zaq.ne.jp

●グループホームこがねい・ちぐら TEL/FAX: 042-387-8468 ●グループホームらく TEL/FAX: 042-383-6181

●らく福祉会 公式ホームページ <http://rakufukushikai8.wixsite.com/koganeishi>



福祉会



《スペース楽活動報告・石和への旅路》



旅先で感じた親しき人々の楽しい側面

この度、スペース楽の一泊旅行に参加させていただきました藤岡と申します。今まで何度か楽のレクリエーションには参加させていただきましたが、どれも予想を上回るスリルと興奮に満ち溢れたものであり私の障害者人生が始まってからとても楽しみにさせてもらっているイベントの一つでありました。それが一泊旅行ともなれば当然私の胸も高鳴らずにはいられません。そして予想通りの楽しい旅行となりました。みどり号でのゆったりとしたバスの旅、山根ラジオ（スタッフ山根のラジオ配信？）も心が踊りました。そして河口湖でのロープウェイの景色は最高でまさにパノラマの名に値するものでした。そして信玄餅工場の見学、日頃食品製造に身を捧げる人間の一人として目指すべきメーカーのあり方というのを学ばせてもらったような気がします。夜は皆さんと楽しいお食事とカラオケを楽しみました。どちらかということ日頃は大人しい性格の皆さんが意欲的に歌われる姿を見て、日々の作業では触れられる事ができなかった皆さんの楽しい側面に触れられる事ができ不覚にも胸が熱くなりました次第です。翌日も楽しいイベントが目白押しでしたが中でもクラフト作りは楽しく皆さん思い思いに創作活動に励んでおられました。私はというと今回、参加されなかった柳沢元施設長に恩返しができる千載一遇のチャンスと思い心を込めてお土産としてジェルキャンドルを作成させていただきました次第でございます。楽しいイベント盛りだくさんの二日目ではありましたが職員さんのスケジュール管理が完璧で時間どおりに帰ってくることができました。私が心身に変調をきたしてから早8年の歳月が過ぎ去ろうとしています。その間にいろいろな事がありました。しかし今では職員の方々、メンバーの皆さんに支えられてとても豊かな毎日をご過ごさせていただいています。今回の旅行はその集大成の一つとも言えるものでした。職員の方々、メンバーの皆さん本当にありがとうございました。

追伸 お忙しい中、ご参加いただいた富沢さんには感謝の言葉もございません。お話いただいた貴重な教訓の数々をしっかりと胸に刻み、今後の障害者人生の糧としていけたらと思っています。

（スペース楽 藤岡）





《スペース楽・2 活動報告》

～福祉相撲～

立春を過ぎた2月9日(土)に善意銀行様より、NHK福祉相撲の観覧ご招待をいただきました。当日の天気予報は雪で、無事に電車で帰宅できるか心配しつつ出かけましたが、力士のパフォーマンスや歌手の生歌に盛り上がり大満足して幕内取組の最後まで楽しむことができました。

好きな歌手や力士に声援を送りながら楽しんだメンバーの声を載せたいと思います。

- ・前に親と見た巡業と雰囲気全然違ってよかった。
- ・岩崎宏美さんに35年ぶりに再会できて感激しました。生歌が聞けて良かった。
- ・土俵を馴らす箒が高そうだった。塩を大量に使うなと思った。初っ切りがおもしろかった。行司が何人もいるのは驚きだった。力士の歌が思ったよりもうまかった。
- ・国技館が広くて楽しかった。雪がそれほど降らなくてよかった。
- ・お相撲さんの後ろ姿が見られました。ムキムキの背中にびっくりです。

(スペース楽・2 鮫島)

《グループホーム活動報告》

3月3日(日)第2回町内会避難訓練に参加させて頂きました。地域の皆さまと一緒に訓練できました。参加したメンバーの感想を掲載します。

(グループホームらく 福吉)

質問する人もいるんだなぁと思いました。死にたくなければ知っていた方が良かったらと思うました。

防災に対して少し理解を深めました。

体育館の中は寒かった。アルファ米は、おいしかったです。避難訓練に参加できるとは思わなかった。

初めて参加させてもらえました。市役所の方の岡山県の倉敷に行った時のお話をお伺いして実際の被災地の様子も知ることが出来たので自分たちが被災したときの心構えも出来ました。日頃の備えをしっかりとして、その時にパニックにならないようにしたいと思います。ありがとうございました。

炊き出しがおいしく、内容のこいものになりました。ありがとうございました。

避難所の様子がよくわかりためになると思った。

参加して本番がなければいい。豚汁がおいしかった。

今年は去年検討すると言っていたペット同伴の避難が実施されていて猫が一匹と犬が一匹参加できて良かったです。倉敷市にボランティアで9日間活動された市の職員さんの話が実際に現場を見て活動されたため、とてもリアルでわかり易くためになりました。

今回は、災害が起きる瞬間の話ではなく、災害がおこって、しばらくした頃の話を書いた。そうなら、文句をつけてばかりいず何かの役割をにない役に立とうと思う。

- 東京大学との関係 -

1984年4月18日事件発覚の一ヶ月後、朝日新聞は「宇都宮病院の“出先診療所” 東大医長ら深く癒着」と宇都宮病院と東大医学部との癒着を報道する。東大との関係は1962年から始まり、22年にわたる。東京大学には少なくとも医学部脳研究施設、医学部精神衛生学教室、大学病院精神科外来、大学病院分院精神科の4つが宇都宮病院と癒着があったという。

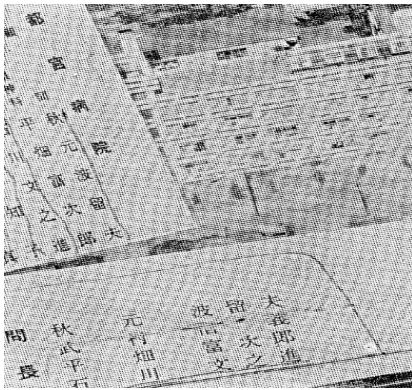
石川文之進はそもそも1953年に内科の病院を開業し、その後1960年から始まる医療金融公庫から精神病院への低利長期融資を受け61年に57床の精神病院（精神37床・結核12床・一般8床）宇都宮病院を開業。開設時石川は内科医、初代院長は国立肥前療養所（精神科）元所長の伊藤医師、1956年から肥前療養所の開放化を進め58年に80%を開放するも予算・職員不足、病院外からの圧力などにより後退、所長の座をおりていた。石川は施設充実の注文には応じず結局、伊藤氏は半年で去る。次の院長もすぐに去る。1962年三代目院長に平畑医師（京大医学部助教授、関西医大教授を歴任した精神科医）が就く。平畑氏から石川は東大の精神神経科医局へ勉強に行くようすすめられる。そして石川は東大の研究生となり、研修指導医を秋元波留夫教授が引き受けた。その後、秋元教授は武村信義助教授を紹介、以後、宇都宮病院と東大医学部脳研究施設は深いかかわりを持ち、亡くなった患者の脳を違法に取り出して提供する関係へとようになっていく。脳研究施設の元教授は宇都宮病院の常勤医として登録され、ある者は宇都宮病院をフィールドに様々な研究を行った。宇都宮病院の入院案内には顧問として秋元波留夫、武村信義の名があり、他にも勤務医として東大系の人達が名を連ねていた。61年に57床で始まった病院は東大教授を顧問にし、67年には375床となる。

秋元氏は1964年のライシャワー大使事件の際は、日本精神衛生会会長として精神衛生法の早急な改悪にストップをかけた若手医師等らの行動を了承した方である。顧問として勝手に名前が使われたようであるが、宇都宮病院に立ち寄ったことはあるという。病院の実態を知るすべはなかったのだろうか。

宇都宮病院では1971年に石川文之進が院長に就任。事務長だった弟が宇都宮市議に当選、後任を宇都宮南警察署から招へいしている。75年に弟が栃木県議会議員となると病床数は722床に拡大。翌76年さらに852床に拡大、東大外来系の医師たちは関連病院として患者を送り込んできた。石川一族は宇都宮病院の収益を核に様々な業種に進出し、建設会社、倉庫、自動車学校、幼稚園、老人ホーム、看護学校なども作り報徳会グループとして宇都宮市では大きな存在となる。

1981年人事制度を大幅に変更。45才昇給停止、55才定年、欠員補充は若年労働者を採用し人件費の削減を図りさらに収益を上げる。この間3年余りの間に220名の患者が死亡している。一方で東京本郷の東大赤門と同じ並びのビルの4階に報徳会本郷神経クリニックを開院。実質的な所長は東大病院外来医長で東大のコンピューターを持ち込み学内の回線とつなぐ。症例研究会のため入院患者の出前みたいなことも行われた。このことが後に朝日新聞で「宇都宮病院の“出先診療所” 東大医長ら深く癒着」と報道されることとなる。

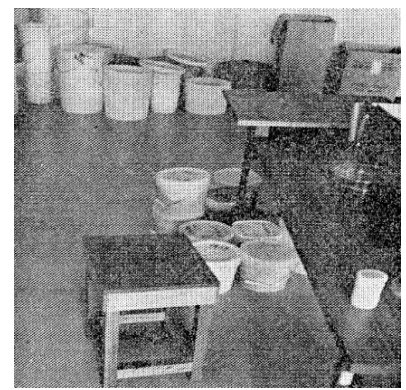
1982年4月筑波研究学園都市でアルコール症に関する国際会議が開かれた。主催者は東大医学部の逸見教授、費用は東大創立100年記念学術研究奨励資金でまかなわれた。メインは日本人にはアルコールが分解してできるアセトアルデヒドの分解酵素が少ないため欧米人に比べ酒に弱く、すぐに赤くなった



薬袋に書かれた医師名



病院経営の実態



患者の脳を入れていた容器

りするという発表。今では多くの人知っていることだが、これは筑波大の原田助教授が西ドイツ留学中に発見し、帰国後に東大の逸見教授、武村助教授、浅香講師の3人が加わり、宇都宮病院の100人のアルコール依存症の患者さんから髪の毛を提供してもらい研究をしていた。この研究の共同研究者に石川院長も名を連ねていた。この国際会議の続編は1983年11月筑波で開かれ、主催は原田助教授、資金は三菱財団の科学研究費が使われた。ディナーパーティーでは石川院長が歓迎の挨拶をしている。

宇都宮病院では関東一円の精神病院へ「アル中患者歓迎」(注・当時の表現のまま)のパンフレットを配って積極的にかき集めていた。84年、事件発覚時の入院患者は974名(定床920)、入院患者の3割はアルコール依存症や薬物依存症で都内の病院などで対応困難と見なされた患者を積極的に受け入れ、宇都宮病院には「必要悪」としての社会的存在意義が生じ収容施設の様相を呈していた。常勤医は石川院長ほか2名、看護師は158名必要なところ正看6名、准看61名しかいなかった。この頃の年商は23億円にのぼっている。宇都宮病院事件はただの悪徳病院の不祥事などではなかった。精神病院を収容施設とする日本社会の象徴的な問題であると共に治療者、研究者のモラルも問われていた。

東大は患者虐待を知らながらそこから研究資料を集めていたのである。東大病院では1974年にデイホスピタルができ、翌年に患者さんを生活者としてみる生活臨床を導入し、1988年にはSST(生活技能訓練)を導入する。同じ東大でのことである。

1984年5月14日東大の三島医学部長は斎藤・精神科外来医長、浅香・精神衛生学教授、武村・脳研究施設助教授、池田・脳研究施設助手、吉川・放射線科助手の5名に嚴重注意処分、逸見・精神衛生学教授に注意処分を言い渡した。大学が医師に処分を下したのは初めてのことだったというが、はたして十分な処分だったのだろうか。また、問題は医師たちへの処分だけで済むことだったのだろうか。

- 事件の国際化と法改正 -

1984年の事件発覚後、海外でも報道され、84年8月、国連人権小委員会で障害者インターナショナル(DPI)が日本の精神病院の人権抑圧問題に言及、多くの病院での患者の扱いは動物以下、患者の障害を虐待によってさらに悪化させ、入院障害という状況をつくって治療を困難にし、ときに社会復帰を不可能にするとし、精神障害者の独立の生活と自由の権利の確立を訴えた。

翌85年に国連法律家委員会と国際保健専門職委員会の合同調査が行われ、国連人権小委員会・国際人権連盟から「日本の精神医療に非難勧告」が出される。事件発覚の前年1983年から国連で国際障害者年が始まっていた。また、10年ほど前の1971年にはソ連の反体制者を収容する特殊精神病院が正式に告

発され、南アフリカ共和国でも反政府的な市民を抑圧するために同様のことが行われ問題となっていた。

1985年に国連から精神医療に対して非難勧告を出された日本政府は、1987年精神衛生法を改正し、人権擁護と社会復帰の促進を図る精神保健法に改めることとなる。しかし、またしても医療法の精神科特例は改正されず残っていくのである。法改正から遡ること20年前、1968年の国連のクランク勧告を無視した結果、民間精神病院の乱立と乱脈経営、人権無視の収容施設化を招き悲惨な事件が頻発したのである。国にこの反省がなく根本的な施策の転換がない限り法改正で全てが解決したわけではなかった。

大和川病院事件 - 法改正もなんのその3度の事件と廃院までの30年・行政との癒着 -

今回取り上げた三つの事件の中で病院が廃院となったのは大和川病院だけである。大きな事件を3回も起こし、その運営実態は言語道断でひどいものであるが、さらに病院と行政との癒着はこの問題を象徴するものである。

京都十全会病院の医師3人が告発された1970年の前年、1969年3月22日大阪の大和川病院で最初の事件は起きた。第二の事件は最初の事件から10年後の1979年8月1日、宇都宮病院事件の4年前。第三の事件はさらに14年後1993年2月15日、宇都宮病院事件の10年後、精神保健法制定の6年後に起きている。二つの事件は遺族には急性心不全と説明された患者さんが実は数名の看護人に殴る蹴るの暴行を受け死亡していたということが発覚。三つ目は病棟内で暴行を受けた患者さんを治療もせず放置し死亡させている。いずれも遺族の訴えや退院した患者の訴えで事件となっている。

大和川病院においては精神衛生法時代の処遇環境が、精神保健法さらに精神保健福祉法に改正されてもなんら改善されることなく、行政も都合の良い病院として利用し、旧態依然とした劣悪な入院環境が継続していた。入院経路について1993年当時、大部分が警察・福祉ルートでの入院であり、大阪・京都・兵庫・奈良・和歌山の警察署経由によるものが多かったという。複数の救急車を持ち、警察や保健所からの連絡があれば一晩に何台も出動することがあった。病院には常勤の指定医がおらず、連れてきた患者はまず任意入院させ、その後閉鎖病棟や保護室に入れる不法入院だった。大和川病院も宇都宮病院と同様に他の病院が受け入れない患者でも受け入れるという実態があり、行政にとって非常に重宝な病院であった。病院の開設許可を取り消され廃院になるのは第三の事件から4年後、1997年10月である。

大和川病院の前身は旧安田病院（神経科・精神科）で、1963年3月に安田基隆が設立、第一の事件を受け1969年12月に大和川病院に改称。大阪円成病院（内科337床うち老人213床）と共に医療法人北錦会の経営。1982年には個人経営の安田病院（内科250床うち老人130床）を設立。安田が三病院の経営に君臨し、患者は近畿一円から収容されていた。

安田個人は高額納税者の常連で、北錦会の申告所得も常に近畿の医療法人の上位にランクされていた。1966年から6年間住吉区医師会長をつとめ、大阪府医師会の理事でもあり、診療報酬明細書を審査する審査委員や納税協会副会長などを歴任し地元の名士として有名であった。1971、75、79年と大阪府議選に出馬、79年には衆議院選にも立候補している。また、ガン撲滅を目的に資財30億円を投じて1988年に「安田記念財団」を設立している。この財団の理事には、大学医学部教授、府会議員12人が名を連ね、顧問には衆議院議員4人の名があり、評議員24人には東大、慶応大、神戸大などの医学部教授と共に日本精神科病院協会会長の名もあった。

最初の事件の報道では「病院は420床の届出なのに550人が入院し看護者は約80人いるが半数は無資格者であり、監督官庁の指導監督のありかたが問題」と書かれているが、事件後の1969年12月に

行われた監査では改善勧告だけであった。

それから 10 年、1979 年二番目の事件の報道では、保健所職員に暴行事件を届けたが問題にされなかったとし再び監督官庁である大阪府の職務怠慢、行政側の責任にも言及している。この事件後の大阪府の監査では 6 人の鑑定医を派遣して入院患者を直接診察する異例の措置を行い、鑑定された患者の 20% が入院不要と判定、知事名で退院命令を発し、他の病棟にも入院不要の患者がいるとみて退院させるよう指示をしている。

それからさらに 14 年、三番目の事件の後、1993 年 4 月 9 日、大阪府は精神保健法による病院指導を実施、7 月 2 日立ち入り調査に踏み込んだ。1994 年 2 月にも再調査を実施。

1992 年安田記念財団が厚生省認可に格上げされたとき、常任理事ポストに厚生省 OB を幹旋、東京事務所の事務局長も二人続けて同省 OB の天下りを受け入れている。1995 年 9 月と 1996 年 3 月の厚生省職員の海外出張費用も負担している。安田は常々「厚生省局長と電話で話せる関係」を自慢、「財団には役所と、患者を送り込んでいた警察、それに厚生省が付いている。この三つが付いている以上、うちがつぶれることはない」と人脈を誇示していた。

1992 年から 1997 年までの 5 年間に入院患者の不審死は 26 件に上っている。1997 年 3 月 19 日、厚生省、大阪府、大阪府が大和川病院系列三病院に同時一斉立ち入り調査を実施。患者虐待以外にも違法な退院制限、隔離拘束、虚位報告、不正請求など長期にわたる不正が明らかとなる。その後、患者 20 人の退院申請があり、大阪府精神医療審議会も立ち入り調査を開始。8 月 5 日には入院患者全員の転退院が完了。また、労働基準監督署、警察、検察の捜査の結果、ここ 2 年半で少なくとも 24 億円の診療報酬の不正受給があり、安田他 3 名は診療報酬不正受給及び詐欺罪等で起訴され、大和川病院は 1997 年 10 月、開設許可を取り消され廃院となる。1998 年 4 月、安田に懲役 3 年の実刑判決が下されている。

大和川病院の実態が明らかになったのには劣悪で不正な入院医療を問題視し、医療の改善を求め続けてきた大阪精神医療人権センターの役割が大きかった。この事件は精神障害者の人権を大きく侵害する事件として、全国的にも注目され精神保健福祉法の改正に影響を及ぼした。

さらにこの事件は、①我国の精神医療が、なお非医療的な、単に精神病院に入院（収容）させて、地域から隔離するといった機能を残していること、②精神障害者のことを正しく理解していなければならぬはずの精神病院内において、人権侵害が行われていた事実が発覚したことで、精神医療に従事する者でも偏見と差別意識があることが改めて明らかになったこと、③精神障害者に対する差別意識は、適切な精神科医療を受ける権利を持つ精神障害者とその家族にとって、医療を受ける上で大きな障害となり、社会復帰を遅らせる原因となっていることなどの諸問題を改めて提起するところとなった。（精神保健福祉審議会・意見具申 - 『精神医療人権白書』1987 第二東京弁護士会人権擁護委員会編）という。

三つの事件から見えてくるものは、事件を起こした病院だけが問題なのではなく、国の施策はもちろんだが行政との関係が大きく絡んでいるのが分かる。自分が暮らしている地域の中で障害のある人たちの生きづらさに共感し、人権を守り、共に生きられる社会づくりをしないかぎり、障害のある人たちを地域から隔離し病院や施設へ収容してきた歴史は変わることはないのだろう。

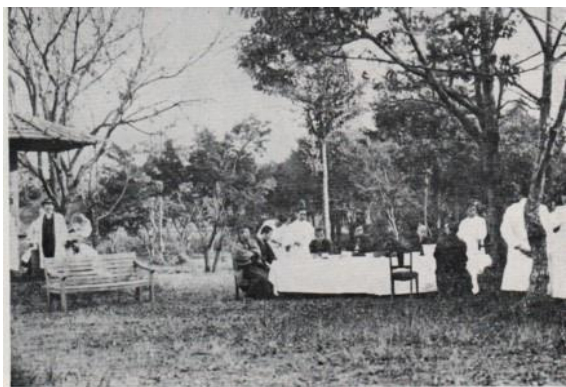
現在でも精神科病院の中では身体拘束による事故が起こっている。医療法の精神科特例は 2001 年の第 4 次医療法改正によって多少見直されたとはいえ、未だに残っている。これまで様々な団体が廃止を訴え、2017 年には日本医療労働組合連合会が「精神科特例の廃止」を提言し厚生労働省に提出。2018 年には第 196 回国会に「精神保健医療福祉の改善に関する請願」が出され、その一番目に「精神科特例を廃止

すること」が挙げられている。また現在、精神医療国家賠償請求訴訟研究会による精神医療国家賠償請求訴訟も準備されている。

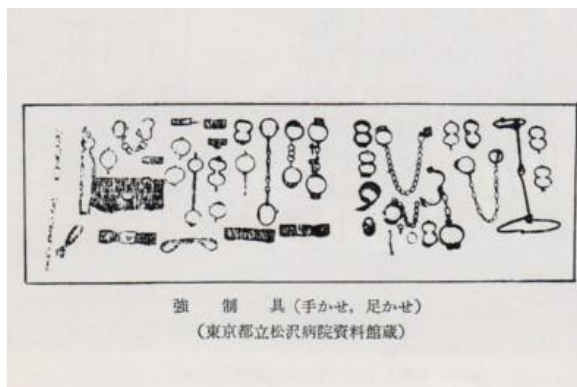
1933（昭和8）年の『救済会会報 53号』に厩橋病院看護長の古賀鹿吉が書いた「精神病に対する世人の無理解と看護人協会設立の提唱」という文章が載っている。1947（昭和22）年の全日本看護人協会設立に先立つ14年前である。そこには結語として「看護人は如何なる場合にも必ず患者と共に起臥を共にする位でなくては真の看護、真の事故防止は出来ない事を確信する私は、如斯取扱法所謂監置に重きを置き、^{あたか}も刑務所に於ける囚人を遇するの取扱法を未だになせる病院ありとせば、社会に呼び掛ける前に此の方面から徹底的に改善させるべきであると考へたのである。左なくば如何に声を大にして精神病患者の病院に於ける新しき取扱法を説くも結局徒勞に終わらざるを得ない。否世の誤解を益々深くする基であらふ。一人の誤れる看護人の為に全国の看護人が曲解されるが如く一つの精神病院の事故は全国の精神病院に影響する。…」

平成31年の今、昭和8年の訴えに耳を傾ける必要は無いと言い切れるのだろうか。

（この厩橋病院には昭和40年代に菱山珠夫医師[歴史を訪ねて4・生活臨床 参照]が勤務し、現在の生活訓練施設の先駆けとなる実践を行い精神障害リハビリテーションの道を拓いている。）



東京府巣鴨病院のうどん会



巣鴨病院で撤廃された拘束具

参考文献

- ・「十全会糾弾闘争の経過」 榎本貴志雄（『精神医療 Vol.4 No.2』1975年）
- ・「医療政策ヒストリー座談会 第1回1985(昭和60)年 第1次医療法改正」 新田秀樹（『医療と社会 Vol.26 No.4』2017年）
- ・『新ルポ・精神病院』 大熊一夫（朝日新聞社 1985年）
- ・『東大病院精神科病棟の30年』 富田三樹生（青弓社 2000年）
- ・「宇都宮病院事件から精神衛生法改正までの歴史の再検討」 桐原尚之（立命館大学大学院 先端総合学術研究科紀要『コア・エシックス』11号 2015年）
- ・「精神病院不祥事件が語る入院医療の背景と実態 - 大和川病院事件を通して考える」 仲アサヨ（立命館大学 「生存学研究センター報告 11」 2010年）
- ・『精神医療人権白書』 第二東京弁護士会人権擁護委員会編（悠久書房 1987年）
- ・『日本精神科看護史』 浦野シマ（共同研究者・鈴木芳次）（牧野出版 1982年）

2019.02.05

富澤淳一

2018年度 活動報告 スペース楽 スペース楽・2 グループホームこがねい・らく・ちぐら・ちぐら2

4月	1.グループホームちぐら2開設 20.レク-カラオケ(楽・2)	16.レク-羽田空港ANA機体工場見学(楽)
5月	18.レク-カラオケ(楽・2)	
6月	2.出張販売-黄金井名物市(楽) 22.防災訓練(楽・2).レク-カラオケ(楽・2) 28.出張販売-東京都精神障害者バレーボール大会(楽)	13-15.作品展示会-カエルハウス(楽・2)
7月	7-8.出張販売-東センターまつり(楽) 21.出張販売-こむぎ保育園納涼祭(楽) 小金井社協「夏の体験ボランティア」(市内小中高生)受け入れ 26.27.28.31 (楽・2)・25.(楽)	9.レク-映画(楽・2) 26.夜間避難訓練(GH)
8月	出張販売-日本福祉教育専門学校スクーリング 8.20.28(楽)・8(楽・2) 9.レク-ものまねキャラバン(楽)(楽・2) 1.10.22.24 小金井社協「夏の体験ボランティア」(市内小中高生)受け入れ(楽・2)	16.レク-納涼会(ジョナサン)(楽)
9月	4.防災訓練-災害伝言ダイヤル(楽) 小金井市市制 60 周年記念品共同受注(楽)	7.レク-アートアクアリウム(楽・2) 22.日帰り旅行・沼津(GH)
10月	11.レク-新大久保でランチ(楽・2) 20-21.出張販売-市民まつり(楽・楽・2)	14.出張販売-聖ヨハネ祭(楽・楽・2)
11月	3-4.出張販売-ルーテル学院大愛祭販売(楽) 出張販売-イトヨーカド-武蔵小金井店販売 7.(楽)8.(楽・2) 11.出張販売-社会医学技術学院ふくろう祭	13.レク-川越駄菓子屋横丁(楽・2)
12月	障害者週間販売-市第2庁舎 3.(楽・2)5.(楽) 8.出張販売-障害者週間スペシャルイベント 20.クリスマス忘年誕生日会(楽・2) 28.おおそじ(楽・2)	5-7.作品展示会-カエルハウス(楽・2) 10.スシローイトヨーカド-武蔵小金井店ご招待 25.大掃除(楽) 27.年越し夕食会(GH) 28.レク-忘年会(華屋与兵衛)(楽)
1月	2.初詣(GH) 24-25.日帰り&一泊旅行-石和・河口湖(楽・楽・2)	4.新年会(楽・2) 31.夜間避難訓練(GH)
2月	9.レク-福祉相撲(楽・2) 10.出張販売-新小金井つなぐ縁日会	15.171 伝言ダイヤル訓練(GH)
3月	3.前原1.2丁目避難訓練(GH) 11.防災訓練-一時避難所へ移動(楽) 25.レク-横浜ズラシア(楽・楽2) 29.合同花見-小金井公園(楽・楽・2)	9.出張販売-市民活動まつり(楽・楽・2) 13.学習会-心と身体を癒すセルフケア講座(楽) 28.GH卒業生のお話を聴く会(GH)

<らく福祉会、公式 Twitter をはじめました>



こちらにアクセス!



@Raku_fukushikai

らく福祉会のイベントや行事、クッキー情報などを発信していきます。
ホームページにも twitter 情報更新してます。フォローよろしくお願いします!

ご支援ご協力

—2018年4月1日～2019年3月31日—



みなさまからご寄付ならびに様々なご協力を賜りました。ありがとうございました。

『寄付・寄贈・助成』 寄付金ならびに製作品、リサイクル品、ご招待など。（順不同・敬称略）

松居裕子／仲元敬子／若松医院／富永博通／北条孝／藤川トシ子／渡辺さか江／三吉博子／伊藤万里子／根橋五百子／訪問看護ステーション風・土屋秀則／芹口みえ子／浅賀福代／染染楽きもの高野／藤村忍／ハンディサポート“こがねい”／遠藤百合子／坂井えつ子／奥村明史／さいとう医院／林智美／渡辺恵利夫
赤い羽根共同募金（東京共同募金会）よりスペース楽へ「山梨一泊・日帰り旅行一部補助」
株式会社ガイアよりスペース楽へ「忘年会用菓子」 善意銀行よりスペース楽・2へ「NHK 福祉相撲ご招待」
善意銀行よりスペース楽、スペース楽・2へ「ものまねキャラバンご招待」
株式会社あきんどスシローよりスペース楽、スペース楽・2へ「イトーヨーカドー武蔵小金井店ご招待」
ほか匿名のみなさま



『らく福社会賛助会員』

末盛三枝子／槌田春美／北條孝／ろばや／芹口みえ子／森田史雄／宮本祐子／渡辺ふき子／吉田猛／ボランティアグループふらっと・岩井通子／板倉真也

『スペシャルサンクス』

作業所製品の販売や事業委託等を通し、「利用者の仕事」にご協力頂いた皆様です。

土井昇吾商店／株式会社千代田商事／株式会社 MNH／自然食糧品店グルッペ／カフェローカル／株式会社 SOMETHING NEW（コガネイチーズケーキ）／オフィスセヴンス・ノート／新小金井 亀屋
NPO法人あん福祉会／株式会社ろばや／カエルハウス実行委員会／株式会社円グループ／プーの森／NPO 現代座／NPO法人市民の図書館・公民館こがねい 東センター／小金井市社会福祉協議会／聖ヨハネ会／聖ヨハネホーム／小金井市身体障害者福祉協会／日本福祉教育専門学校／東京神学大学／ルーテル学院大学／社会医学技術学院／日本精神科看護技術協会／こむぎ保育園／小金井市役所／染染楽／ウエスト／小嶋工務店／石黒工務店／武蔵野中央病院／イトーヨーカドー武蔵小金井店

～*。～

らく福社会賛助会員

らく福社会賛助会員のみなさまには、

温かいご支援ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

今後とも、ご支援のほどよろしくお願い致します。

らく福社会賛助会員 年会費 ー□ 2,000 円

郵便振替 □座番号：00160-5-171403

加入者名：らく福社会

らく福社会 公式ホームページ



らく福社会

検索

日々、ブログや情報を更新しています。是非ご覧ください。



編集後記 ・メンバーの感想をテトリスのようにうまく配置できて良かったなと思っています（H・F）

・久しぶりに編集を担当しています。今年の桜は満開が長持ちして良いですけど、寒いですね（J・T）

・富澤氏の人気連載「歴史を訪ねて」も次回のシリーズ6で最終回となってしまいます（涙）（T・Y）

イラスト協力 ふくちゃん

